

# 國學院大學渋谷キャンパス再開発計画

宮澤亮 + 朝田志郎／日建設計

鹿島建設

東都渋谷区

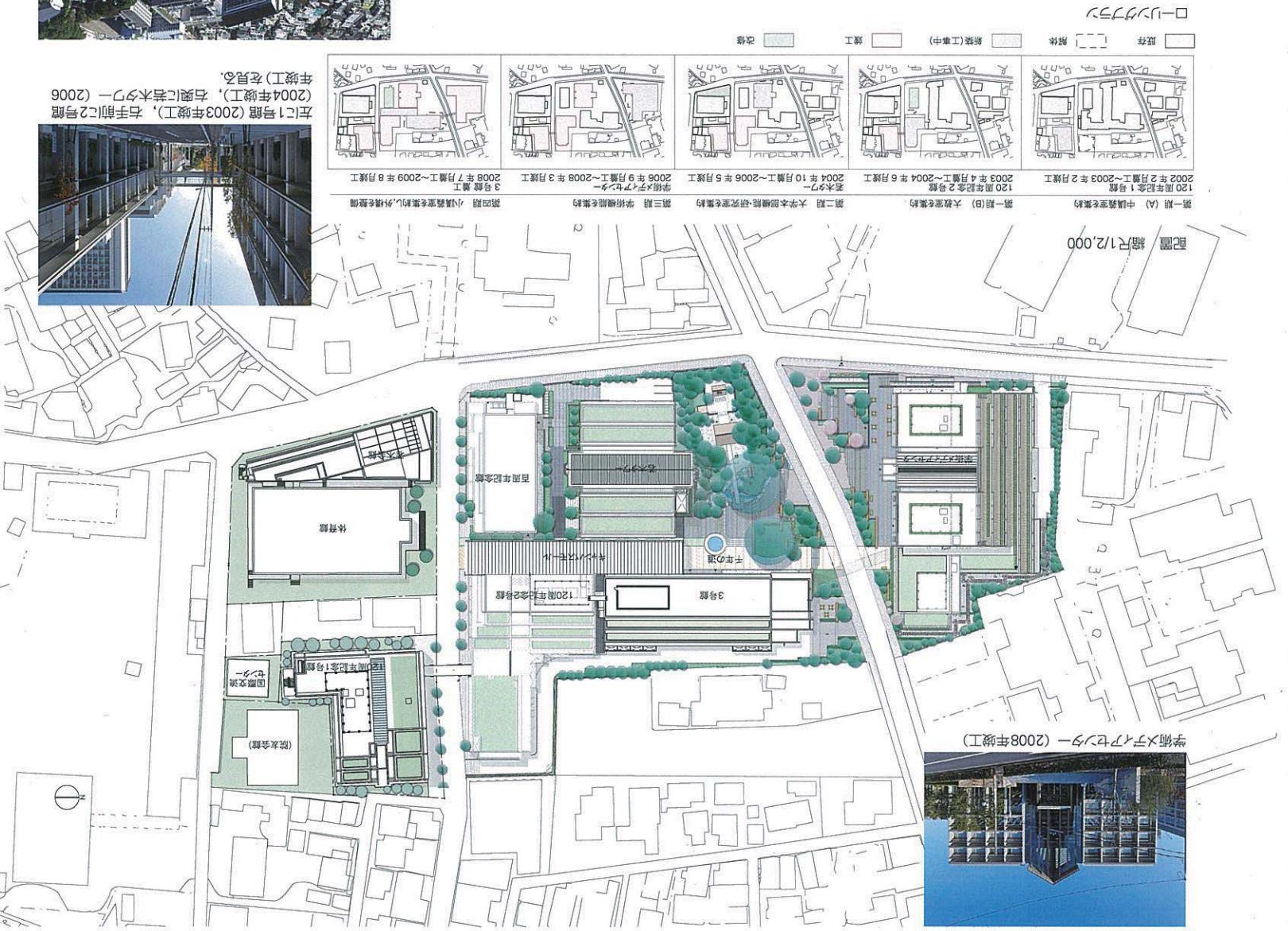
GUIN UNIVERSITY SHIBUYA CAMPUS REDEVELOPMENT PROJECT  
RYO TOGASHI, SHIRO ASADA / NIKKEN SEKKEI



2001年の大学創立120周年を期に9年間の歳月をかけて再計画された國學院大學の渋谷キャンパス、右の若木タワー（2006年竣工）は各棟の容積を転用することで高層化を実現。街に対して大学のシンボルとなっている。左に3号館（2009年竣工）を見る。



清华大学的宗旨是「以学术为本」，即坚持学术研究、教学和人才培养。清华校园内有众多图书馆、实验室、教室、宿舍等设施，以及美丽的校园绿地和建筑群。



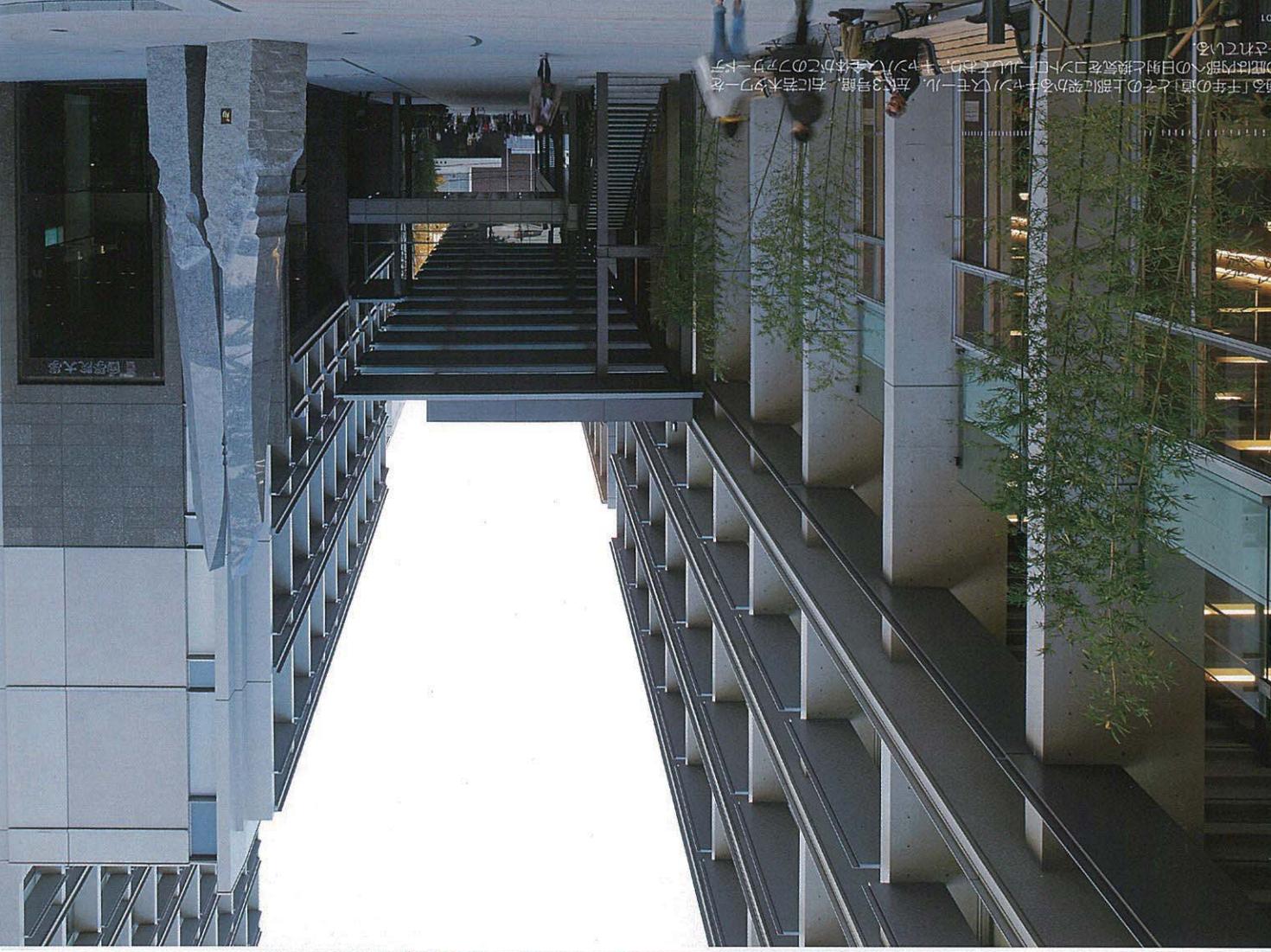
图书馆的宗旨是「以学术为本」，即坚持学术研究、教学和人才培养。

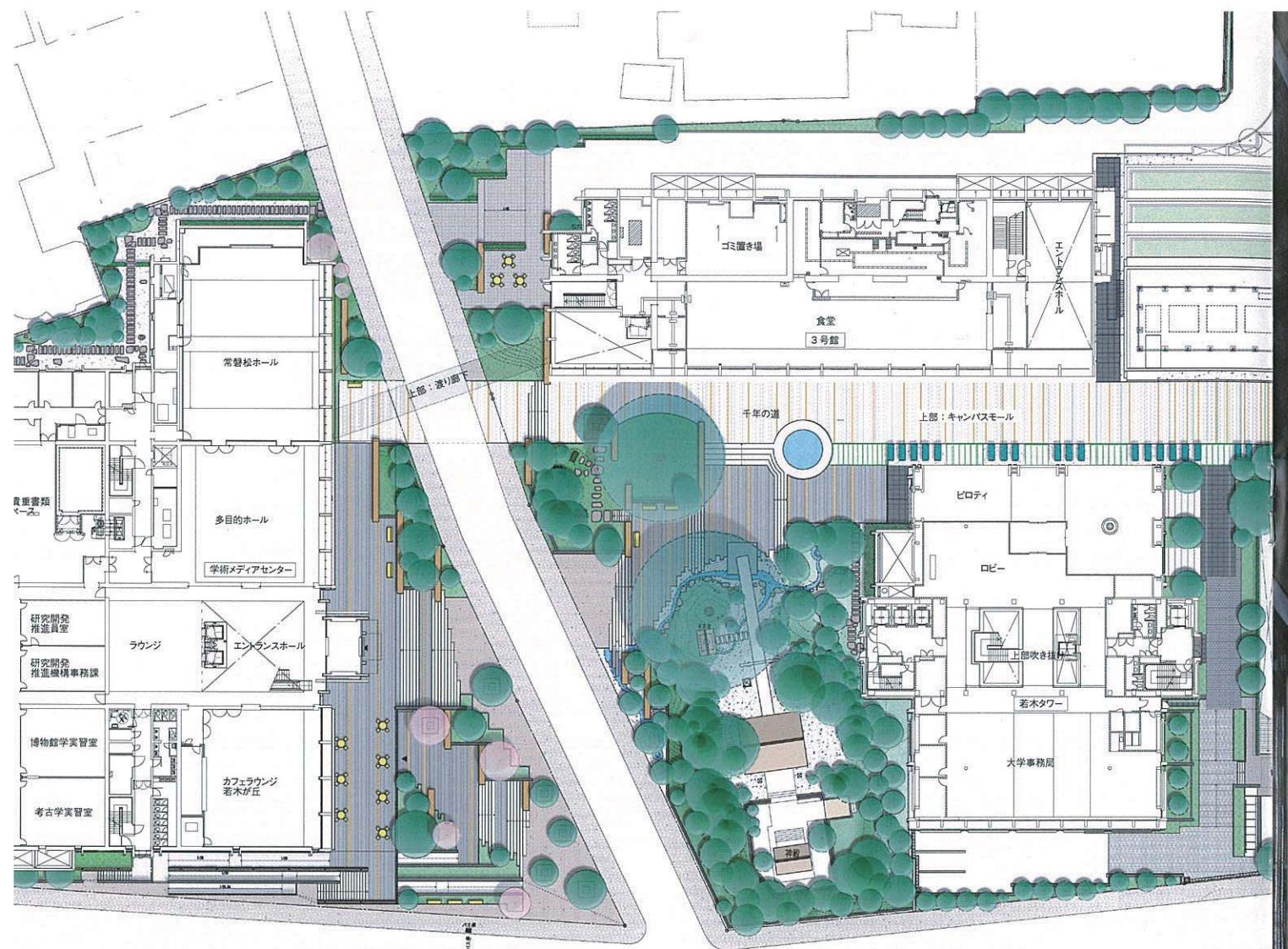
图书馆的主要功能包括：

- 提供丰富的文献资源，满足教学、科研和学习的需求。
- 开展学术交流活动，促进学术研究和学术成果的传播。
- 提供良好的学习环境，为学生提供自习室、讨论室等。
- 组织各种学术讲座、报告会、展览等活动。

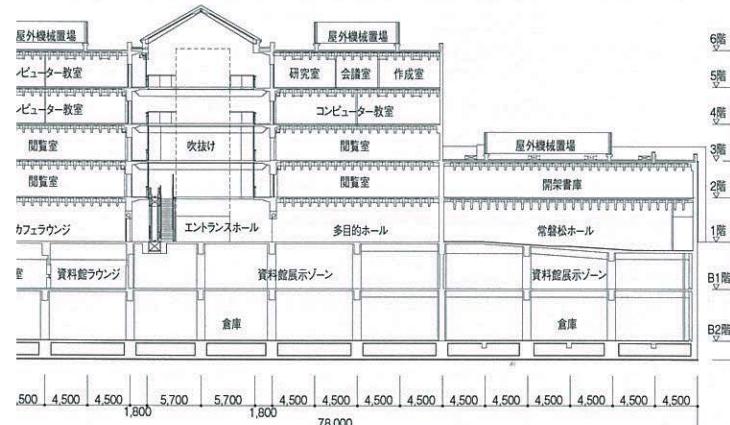
图书馆的开放时间为：

周一至周五：8:00-22:00  
周六、周日及法定节假日：9:00-22:00  
图书馆的开放时间为：





(ディアセンター、3号館、若木タワー) 1階 縮尺1/800

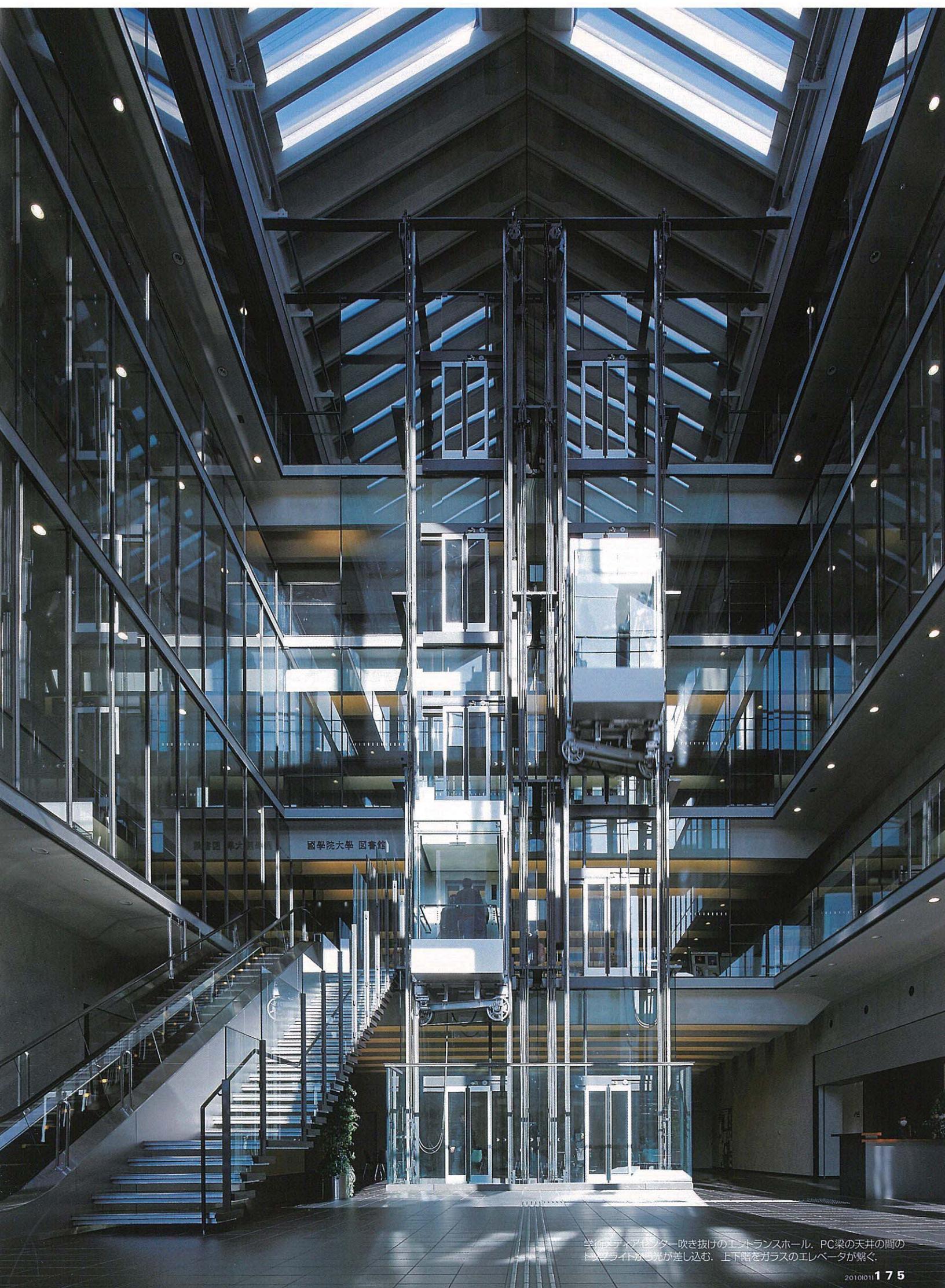


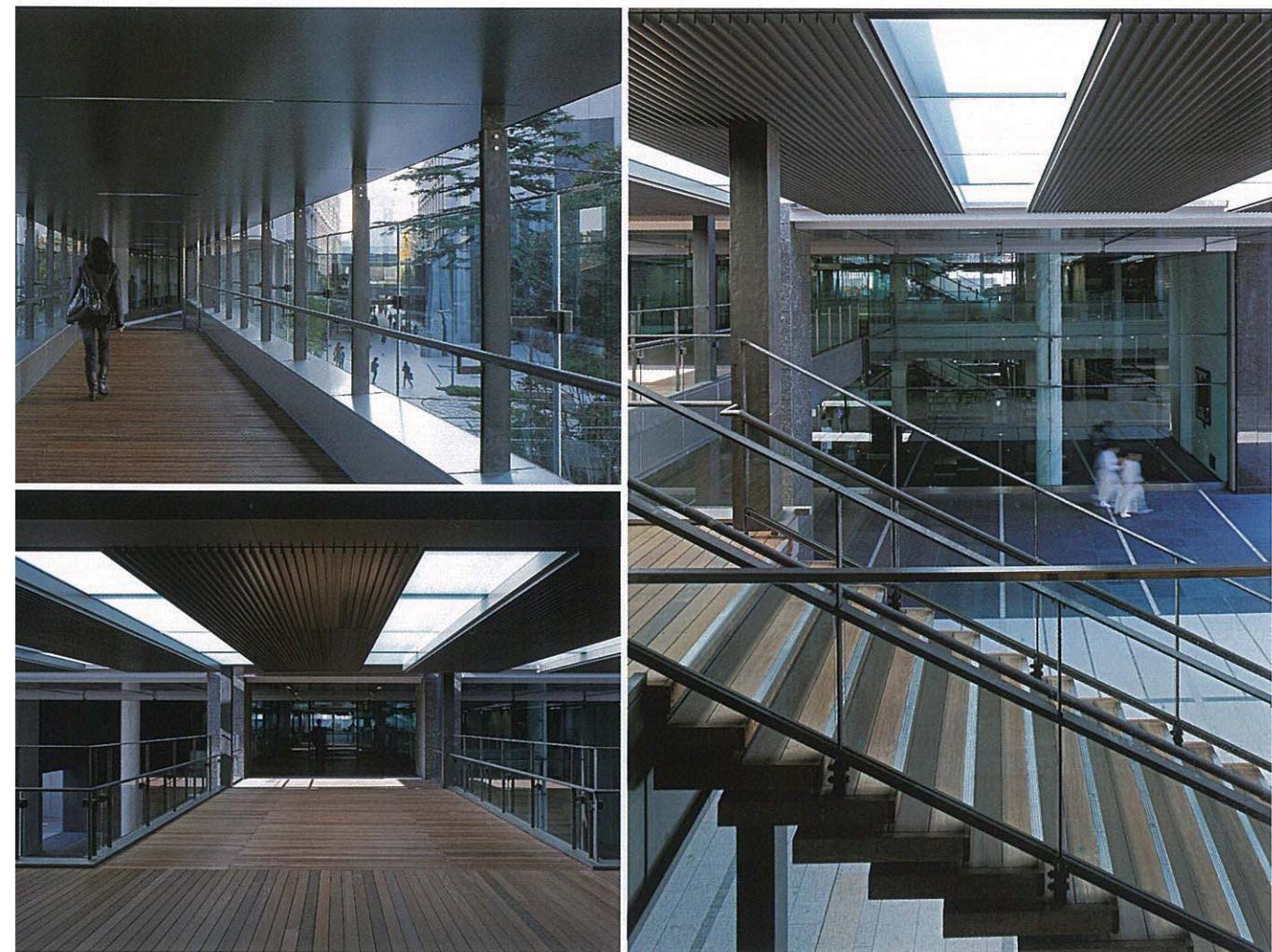
3号館断面 縮尺1/800



△△エントランスホール

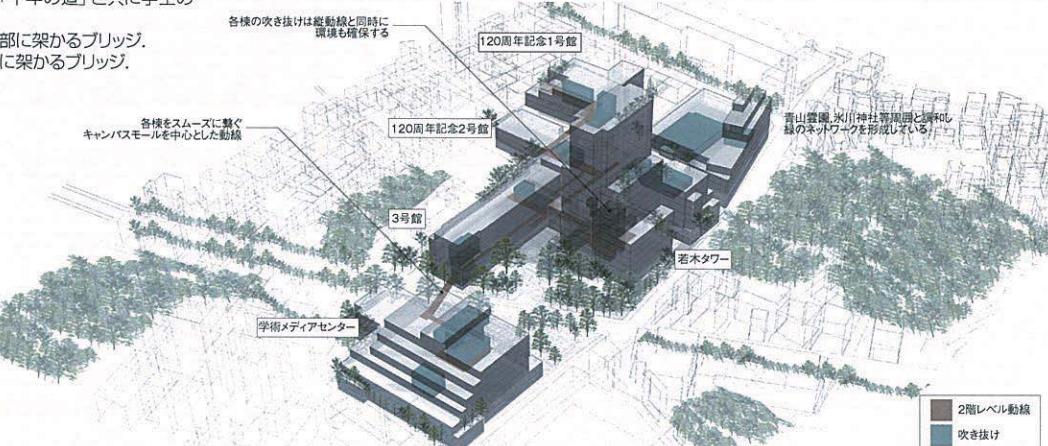
3号館5階のオープンスペース。自由に端末を使用できる。





体は2階レベルで繋がっており、1階の「千年の道」と共に学生の

ている。  
(ディアセンターと3号館を繋ぐ、公道上部に架かるブリッジ。  
・若木タワーを繋ぐ、キャンパスモールに架かるブリッジ。  
線と「千年の道」を繋ぐ階段。

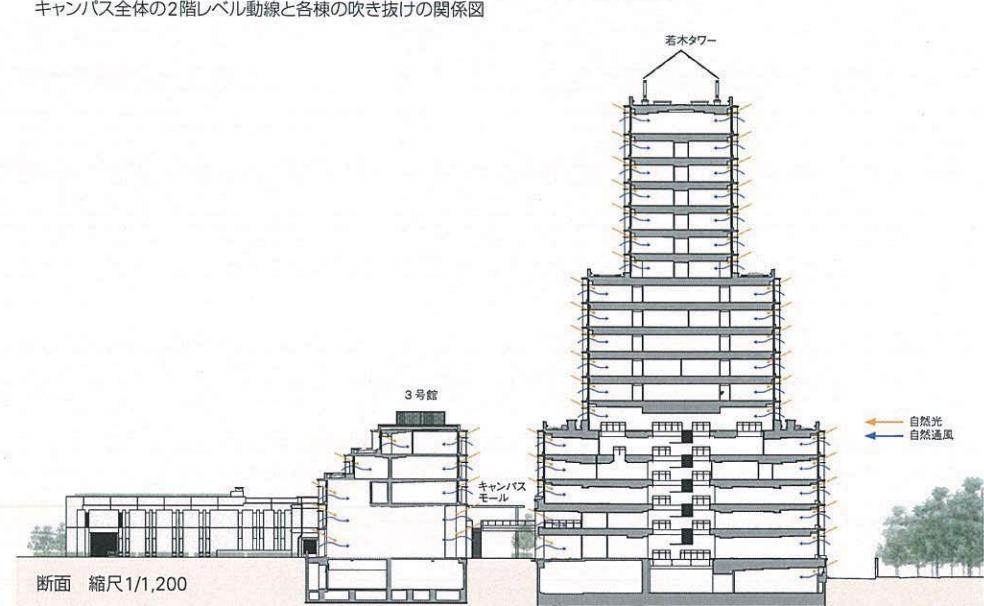


**バス**  
といった機能空間のみならず、食堂やラウンジモールなどの共用空間においては、活発なコミュニケーションが生まれ、教育・研究のための機能的な空間として、大学の知的・文化的雰囲気をつくり出している。

体の共有空間を周囲の都市に対して積極的にして、都市の中心に位置する渋谷キャンパスの立地を生かすようにし、一方キャンパスモールに沿つても個別の立体共用空間を設けるようにした。スケールに変化を与えることで、都市の中に普段通りから路地空間に至るスケールのヒエラルキーも再現し、大学のさまざまなアクティビティに対する受け皿として共用空間の活性化を

窓から室内に導入された自然風は、ドア脇に設けられたパネルから共用部へと誘導される。さらにアトリウムの換気窓より排気するルーバーによって、自然の風が弱くとも、アトリウムの煙突効果による流れが自然に起り換気が促進されるように

(朝田志郎／日建設計)

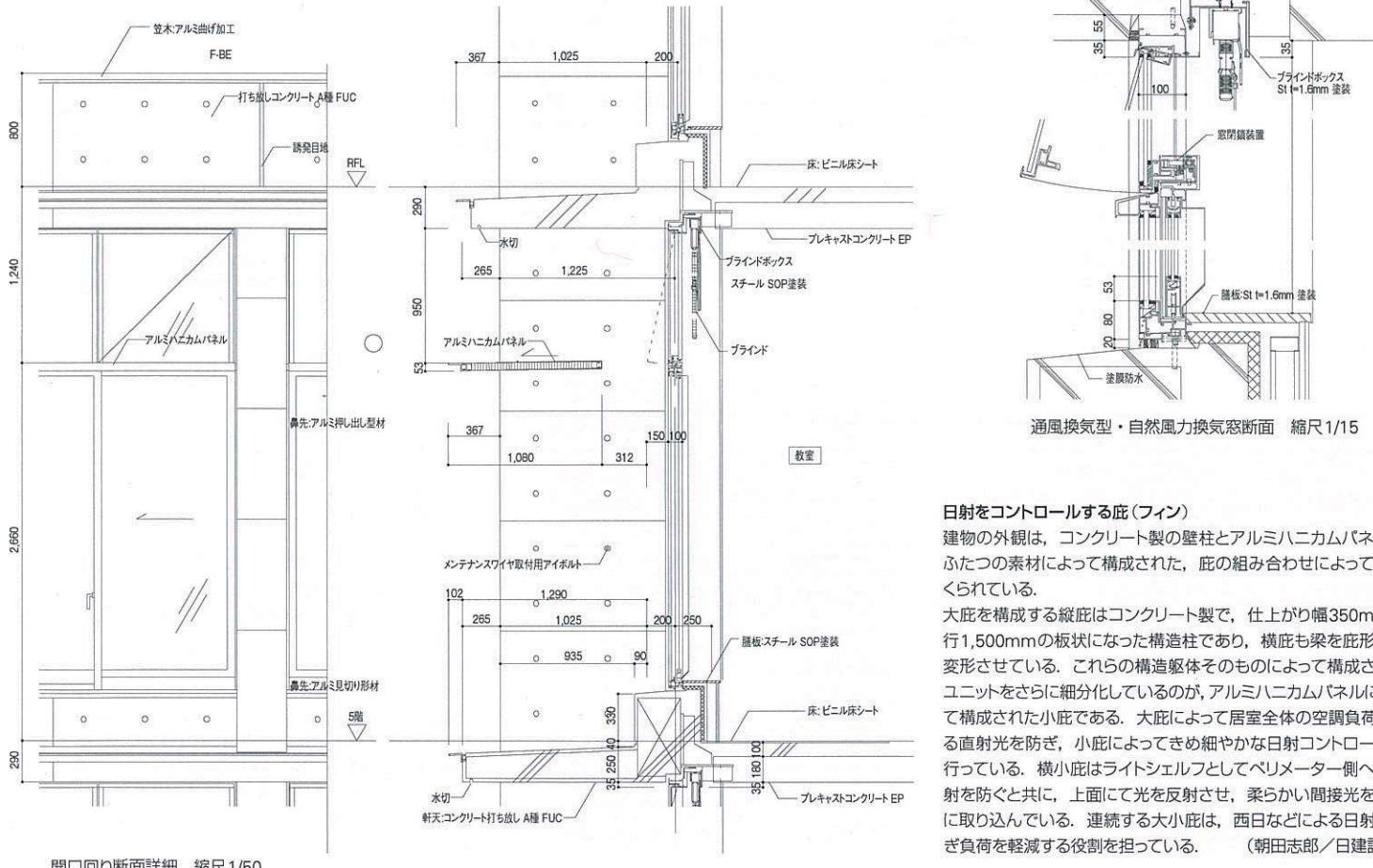


左：通風換気型・自然風力換気窓を全館で使用している。  
右：ワンタッチ／ワンレバー式で開閉できるように開発された。

#### 環境と呼応するエコキャンパス

國學院大學では「環境記慮型キャンパス」を実現させるため、日本の伝統的な建築の作法に立ち返り、高密度な都市にあっても極力自然の力を活用して、エネルギー消費の少ない快適で長寿命な校舎とすることを目標とした。高気密・高断熱を追求した建物は、人にやさしくない気がしていた。もし建物の外皮が自ら呼吸したら、周辺環境と融和し、居住環境は格段に向かうと思われる。自然の風に呼吸して息をするサッシを開発した。2~3m/s以上の風によって窓は自然に閉まり、風が弱まると窓は自ら再び開く動作をする。窓を開放する力は、ダンパー等により押し出していないので、ワンタッチ／ワンレバーで開閉でき、自然風の存在をユーザー自身が視認できる。

(朝田志郎／日建設計)



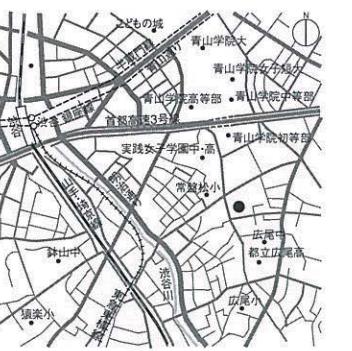
#### 日射をコントロールする庇(フィン)

建物の外観は、コンクリート製の壁柱とアルミニウムパネルのふたつの素材によって構成された、庇の組み合わせによって形づくられている。

大庇を構成する縦庇はコンクリート製で、仕上がり幅350mm奥行き1,500mmの板状になった構造柱であり、横庇も梁を庇形状に変形させている。これらの構造躯体そのものによって構成されたユニットをさらに細分化しているのが、アルミニウムパネルによって構成された小庇である。大庇によって居室全体の空調負荷となる直射光を防ぎ、小庇によって細やかな日射コントロールを行っている。横小庇はライトシェルフとしてペリメータ一側への直射光を防ぐと共に、上面にて光を反射させ、柔らかい間接光を空間に取り込んでいる。連続する大小庇は、西日などによる日射を防ぎ負荷を軽減する役割を担っている。

(朝田志郎／日建設計)

## 國學院大學渋谷キャンパス再開発計画 (本文170頁)



所在地 東京都渋谷区東4-7-5 (6, 9, 10)

主要用途 大学

建主 國學院大學

設計

建築 日建設計

統括／富権亮

担当／朝田志郎 川島俊彦

菊田剛正\*

構造担当／長瀬悟 山脇克彦

村上博昭

電気設備担当／藤戸賢治 本間睦朗

藤川忠弘 島崎敏樹

空調衛生設備担当／飯塚宏

福本啓二\*\* 稲富浩樹

ランドスケープ MLS 担当／三谷康彦

監理 日建設計

担当／片岡幹夫 落合誠

山中祥太郎\*\* 親持徹\*\*

監理設備担当／森本健一 新田温

田邊修\*\* 福井茂\*\*

(\*3号館のみ担当, \*\*学術メディアセンターのみ担当)

施工

渋谷キャンパス

120周年記念1号館 鹿島建設

120周年記念2号館 鹿島建設 東急設計

若木タワー・学術メディアセンター 鹿島建設

大成建設

3号館 鹿島建設

規模

渋谷キャンパス

敷地面積 19,994.49m<sup>2</sup>

建築面積 9,815.08m<sup>2</sup>

延床面積 54,030.63m<sup>2</sup>

建蔽率 許容: 70% (中央街区全体)

容積率 許容: 300% (中央街区全体)

■3号館

構造

■3号館

主体構造 鉄筋コンクリート造

杭・基礎 ベタ基礎

■学術メディアセンター

主体構造 鉄筋コンクリート造 プレキャスト

コンクリート造

杭・基礎 杭基礎

設備

■3号館

空調設備

空調方式 単一ダクト変風量・定風量方式

熱源 ガス焚吸式冷水機

衛生設備

■3号館

工程

渋谷キャンパス

設計期間 2001年4月～2008年6月

施工期間 2002年2月～2009年9月

■3号館

設計期間 2007年3月～2008年6月

施工期間 2008年7月～2009年8月

■学術メディアセンター

設計期間 2005年4月～2006年5月

施工期間 2006年8月～2008年3月

工事費 渋谷キャンパス

■3号館

利用案内

学術メディアセンター 考古学資料館

開館時間 10:00～17:00

休館日 曜日曜日

給水 加圧給水方式

給湯 個別方式

排水 屋内合流(厨房排水は単独系統)

屋外分流方式

電気設備

受電方式 6kV 高圧1回線受電方式(2号館

より供給)

設備容量 一般電源用 Tr 600kVA

電化厨房電源用 Tr 500kVA

消火 屋内消火栓設備 連結散水設備

連結送水管

排煙 なし

昇降機 乗用エレベーター

(20人乗り 60m/min) ×1台

(9人乗り 60m/min) ×1台

その他 廉房設備

■学術メディアセンター

空調設備

空調方式 外調機+パッケージ形空調機 ピ

ルマルチエアコン

衛生設備

給水 上水(市水) 雑用水(雨水再利用水)

増圧直結ポンプ式

給湯 個別方式: 電気貯湯沸器

排水 屋内: 汚水雑排水合流方式 屋外: 汚

水雨水合流方式

電気設備

受電方式 6.6kV 高圧1回線受電方式

設備容量 一般電源用 Tr 780kVA

消火 屋内消火栓設備 連結散水設備 連結

送水管

その他 雨水流出口抑制槽

昇降機 乗用兼展望用兼車椅子用エレベーター

(20人乗り 60m/min) ×2台

人荷用エレベーター

(20人乗り 90m/min) ×1台

乗用エスカレーター

(4,500人/h 30m/min) ×1台

■3号館

屋根 アスファルト露出防水外断熱工法

外壁 コンクリート打ち放し フッ素樹脂クリア

塗装

開口部 アルミサッシ(システム・不二サッシ)

カーテンウォール(昭和機械)

■学術メディアセンター

屋根 アルミバネル t=2.5mm アスファルト

防水(タジマ: KA-TF)

外壁 コンクリート打ち放し 石張り(花崗岩)

本磨き: オーシャングリーン

開口部 アルミサッシ(システム・不二サッシ)

カーテンウォール(昭和機械、新日軒)

内部仕上げ

■3号館

1階 エントランスホール

床 ラインピシャン t=20mm さび石瀬戸内

海産花崗岩

壁 押出成型セメント板(昭和電工建材: ラ

ムダ・ラムダストライプ)

天井 直天(PC板)

食堂・2階

床 ラインピシャン t=20mm さび石瀬戸内

海産花崗岩

壁 コンクリート打ち放し

天井 食堂: 直天+化粧吸音材 t=25mm

2階: 直天(PC板)

3階・4階・5階 教室

床 ピニール床シート t=2.5mm (東リ: リノ

リューム)

壁 コンクリート打ち放しの上 PB t=12.5mm

EP 防汚塗装

天井 直天(PC板) +化粧吸音材 t=25mm

■学術メディアセンター

1階 エントランスホール

床 磁器質タイル(名古屋モザイク工業:

CA-R/30308)

壁 コンクリート打ち放し

天井 直天(PC板)

多目的ホール

床 フローリング(大建工業: アーバンGOX)

壁 コンクリート打ち放し 化粧格子壁(作

用集成材の上塗処付)

天井 直天(PC)

利用案内

学術メディアセンター 考古学資料館

開館時間 10:00～17:00

休館日 曜日曜日

総工費 2,342,800,000円

■学術メディアセンター

総工費 4,590,000,000円

外部仕上げ

■3号館

屋根 アスファルト露出防水外断熱工法

外壁 コンクリート打ち放し フッ素樹脂クリア

塗装

開口部 アルミサッシ(システム・不二サッシ)

カーテンウォール(昭和機械)

■学術メディアセンター

屋根 アルミバネル t=2.5mm アスファルト

防水(タジマ: KA-TF)

外壁 コンクリート打ち放し 石張り(花崗岩)

本磨き: オーシャングリーン

開口部 アルミサッシ(システム・不二サッシ)

カーテンウォール(昭和機械, 新日軒)

内部仕上げ

■3号館

1階 エントランスホール

床 ラインピシャン t=20mm